

国際理解講演会

10月14日（木）7限目に、全校生徒を対象に国際理解講演会を実施しました。

特別対策期間中なのでアカシヤ（講堂）には1～3年国際コミュニケーションコースの生徒と2・3年普通クラスの生徒が入り、1年普通クラスは特別教室でGoogle Meetを使い、オンラインで視聴しました。

演題：『世界からのメッセージ～希望ある明日のために/～平和と命の大切さ』

講演者 渡部 陽一さん（戦場カメラマン）



大学の授業の中で、「ピグミー族」という人たちがいることを知り、実際に会って話を聞きたいという理由のみで、何の知識もなく気の向くままにアフリカへ。

そこで遭遇した少年ゲリラ、アフリカ情勢のやるせない現実。恐怖。命こそ奪われなかったものの、その現実に対し恐怖と怒り、どうにかこの状況を人々に伝えたいという想いを拭うことはできず、写真の持つ力で状況を伝えてみようと思ひ立ち、再びアフリカの地を踏むこととなる。

その後学生時代より数々の現地取材、撮影し、後に戦場カメラマンとして活動。

そのゆったりとした独特な語り口と温かい人柄でバラエティーなどへのTV出演が殺到、現在はメディアへの出演と共に、本職である戦場カメラマンとして世界中を飛び回り、戦争の現実を伝えている。





講演を聞いた生徒の感想（抜粋）

- ・私は、将来様々なボランティアをして多くの人と関わって、一つでも多くの笑顔を生み出せる人になることが人生においての目標です。この講演会は、これからの自分の人生に大きな影響を与えるものとなりました。言葉で表すことのできない、心の中から感動が生まれる、引き込まれるような感覚は人生で初めてで、自分の中で何か動き出したような気がしました。人生を変える出会いというのは、こういうことを言うのかと思いました。
- ・今まで「これにチャレンジするの不安だな…」と恐れて挑戦心に自分自身でもふたをしてしまうことがありました。でも、それはとてももったいなくて、慎重さも大事だけど時には思い切りも大切なのだと感じました。それによって生まれた感情、出会い、価値観、視点は今までとは違う、もっと成長した自分を作り出してくれるきっかけになると思うので、寛容な心で世界のいろいろな部分に触れてみたいです。
- ・今回の講演会のお話を聞いて、世界で起きている戦争について、そしてそこに关わる子ども達の様子を見て、私は知ること・伝える力がとても大切なことだと感じました。テレビや本で何気なく流れている戦争や紛争のニュースは、遠いもののように感じるのが今まで多かったですが、今回の話の中で、戦争によって被害を受けた子供の姿の写真や様子を聞くと、私にも何かできるのではないかと思います。
- ・将来目指している教師という立場。これは世界で何かできるわけではないけど、子供達に何か伝えることができると思います。だから、今はできるだけ多くのことを得て、人に触れ、自分の心を育てていこうと思いました。とても心に響くお話をありがとうございました。アフガニスタンの問題について興味を持っていたので、知らなかったことをたくさん聞けて良い機会でした。
- ・国際問題に取り組む中で、敬意を払うことが大切だというのは多くの方がおっしゃることですが、それだけ難しく、大切なことなのだろうと改めて感じました。渡部先生が長く戦場カメラマンとして活躍してこられたのも、危機管理能力に加えて、敬意を払う態度を忘れなかったからだろうと思いました。
- ・先生がヨーロッパを目指す難民の話をしされましたが、アラブの春などで難民が大量に生まれ、ヨーロッパに逃げた結果「欧州難民危機」が起きました。難民を助けることと、自国の維持をどう成立させれば良いか、また、日本の私たちが彼らのためにできることは何だろうかと思いました。